

平成29年度政務活動費収支報告書

議員名 小野 泰

1 収 入

政務活動費 30,000 円
(平成29年11月分～平成30年3月分)

2 支 出

項 目	金 額 (単位:円)	備 考
調 査 研 究 費	32,100円	高砂市、小野市視察の 交通費、宿泊費
研 修 費		
広 報 費		
広 聴 費		
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費		
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	32,100円	

3 残 額 0 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

1月29日～30日

行政視察

旅費計算書

区分	事項	JR・私鉄				船・バス 飛行機	計
		乗車券	グリーン	特急	合計		
厚狭	～ 姫路	7,020		5,070			12,090
	高砂市視察						
姫路	～ 栗生	580					580
	小野市視察						
栗生	～ 厚狭	7,340		5,070			12,410
計		14,940	0	10,140	0	0	25,080
1泊2日							
	運賃合計				25,080	円	
	宿泊料				7,020	円	
	総計				32,100	円	

※領収証記載金額32,600円のうち、交通費、宿泊費の実費は上記のとおり
 残額500円については旅行業務取扱料金

領 収 証

No 016845

小野

様

金 額		百万	千	円
		¥	32600	

印

紙

但し

上記金額正に領収致しました。
ありがとうございました。

平成 30 年 1 月 19 日

取扱者

株式会社

ワールドツアー

WORLD TOURIST CORPORATION

〒754-0014 山口県山口市小

第1原ビル（新幹線西）

TEL (083) 973-7344
FAX (083) 973-7266

※金額を訂正したもの、社印、取扱者印のないもの又は複写でなく、直接記入されたものは無効です。

視察研修報告書

- 1 視察者 小野泰、河崎平男、伊場勇
- 2 視察日 平成 30 年 1 月 30 日
- 3 視察先 兵庫県小野市役所
(対応者) 小野市長 蓬萊務、小野市議会議長 山中修己、議会事務局
- 4 報告事項

【視察の目的】

小野市は「行政も経営」として先駆的な施策でまちづくりに取り組んでおり、どのような方策をとっているのか調査研修を行う。

【視察状況】

小野市は兵庫県県央の人口約 5 万人、面積約 94 ㎢のまちであり、大阪、神戸までは自動車です約 1 時間の距離に位置している。文化面では国宝浄土寺、国宝阿弥陀三尊立像を有し、産業面ではかつて「そろばん」と「家庭用金物」のまちとして栄えていた。今は市独自で整備した約 150 ha の工業団地をトップセールスにより完売し、その先端産業が市の財政を支えている。

行政運営は「行政経営」とあるという基本理念のもと、①顧客満足志向、②成果主義、③オンリーワン、④後手から先手管理という行政経営 4 つの柱を基軸に施策を展開している。管理手法は政策評価ではなく執行評価を重視した方針管理制度であり、それに連動した能力成果主義を実践し、職員の意識改革を行っている。独自の事業として平成 28 年 7 月から県内初となる高校 3 年生までの医療費完全無料化（所得制限なし）、4・5 歳児の幼児教育・保育料無料化（所得制限なし）、警察官 OB ら専任職員 15 名（専用車 8 台）による「安全安心パトロール」の実施、夜間歩行者等に夜光反射材等の着用を義務化する条例施行等、長期計画的に先駆的な施策を展開する一方、入札制度、人事制度改革を進め、財政健全化判断基準等の指標は兵庫県でも上位を確保している。

【考察】

蓬萊小野市長（平成 11 年～5 期目）の都合が合い、直々に行政経営について聞くことができた。民間出身だけあって、市民に対して官と民の決定的な違いを明確に周知していることに驚いた。成果と報酬が連動しない社会、画一的横並びの仲良しクラブ、CS 志向（顧客満足度志向）の欠如、前例踏襲型施策遂行といった過激とも思われる表現もあったが、話を聞いていく中で強烈なリーダーシップがなければできないということがよく感じ取れた。職員の意欲を高め、独自性を重視した施策展開により先駆的で夢を持てるまちにしようという意欲を強く感じ、お出迎えからお見送りまで一流企業の視察に行った感じがした。

本市においても第二次総合計画が始まるころであり、山陽小野田市らしい環境づくりと市民サービスの提供を進めるべきものと考えている。

視察報告書

平成30年2月13日

1 視察日、視察先、事項

平成30年1月29日

兵庫県高砂市 健康福祉部くらしと文化室長 田川真紀 主幹 前川吉也
文化振興によるまちづくりについて

2 参加議員

小野 泰 伊場 勇 河崎 平男

3 報告事項

【視察の目的】

「謡曲、高砂」ゆかりの地として知られる高砂市は、古くは万葉集に詠まれ、自然の恵みと地域の利を生かした竜山石の採掘、木綿栽培、交易等で栄え、今では播磨臨海工業地帯の一翼を担っている。

将来都市像として「生活文化都市高砂」を掲げ、市民が豊かさや幸せを実感し住んでよかったまちとするために、謡曲高砂の振興が、くらしに密着した文化振興によるまちづくりに取り組んでおり、どのような方策をとっているか調査研修を行う。

【視察先の状況】

平成13年12月、文化芸術振興基本法が制定され、地方公共団体の責務として、文化芸術の振興に関する施策を総合的に策定することが規定され、謡曲「高砂」ゆかりの地で知られる高砂市では、文化を活かしたまちづくりに、市全体で取り組んでいくため、総合計画で将来都市像として「生活文化都市高砂」、平成23年3月、「高砂市文化振興条例」を制定し、まちづくりの目指す方向性を明文化し、まちづくりに取り組んでいる。

【考 察】

平成20年4月、教育における地方分権の一環として、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、これにより、従来は教育委員会が担当していた文化行政について、条例で定めることで、地方公共団体の長が担当できるようになり、「謡曲高砂」を中心とした高砂学講座など文化振興のまちづくりの推進により、地域振興や高齢者の健康づくりなどと一体的に推進することで地域づくりの活性化につながると考えられる。